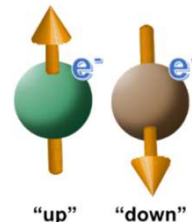


スピントロニクス(深見・金井)研究室 ナノスピンメモリ(池田)研究室



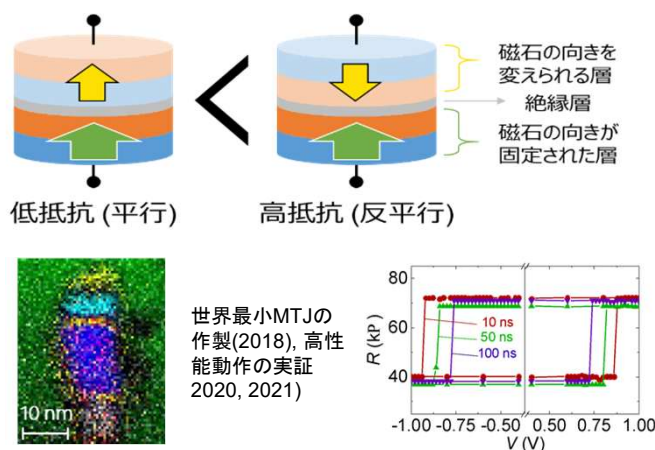
スピントロニクスとは？

電子が -1.6×10^{-19} Cの「電荷」を持っていることは皆さんよくご存じかと思いますが、それに加えて「スピン」（角運動量： $\hbar/2$ ）という磁石の性質も持っています。これまでこの2つはそれぞれ電子デバイスと磁気デバイスで独立に利用されてきましたが、**この2つの性質を同時に使うことでこれまでは考えられなかったような高機能・低消費電力な革新的デバイスを創製**することができます。スピントロニクスとはこの「電荷」と「スピン」の二つの自由度が密接に関連する物理現象を探求し、デバイス応用を目指す学術分野です。スピントロニクスはここ最近発展著しい分野であり、東北大学はそのトップランナーとして世界を牽引しています。

◆ 磁気トンネル接合 (MTJ)

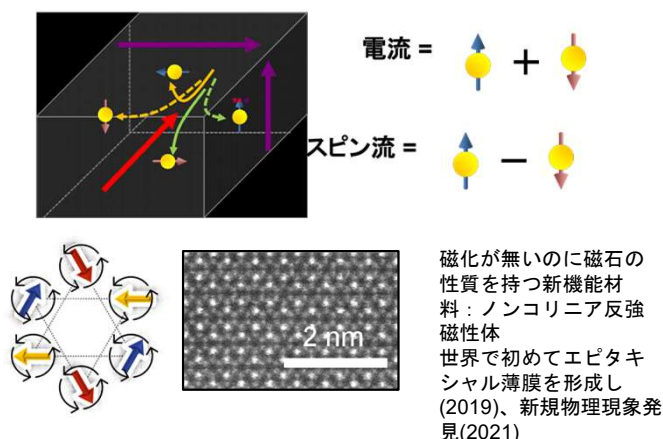
MTJはスピントロニクスの原理を利用した代表的な機能性デバイスです。磁石の向きで情報を記憶でき、超省エネ半導体集積回路を実現できます。2010年に当研究室で開発した垂直CoFeB/MgO-MTJは最近実用化され、市場が拡大しています。

最近では世界最小MTJの動作やWi-Fi周波数帯の電波からの発電に成功するなど、超省エネ社会実現に貢献すべく、材料/素子物理の開拓、技術革新に取り組んでいます。



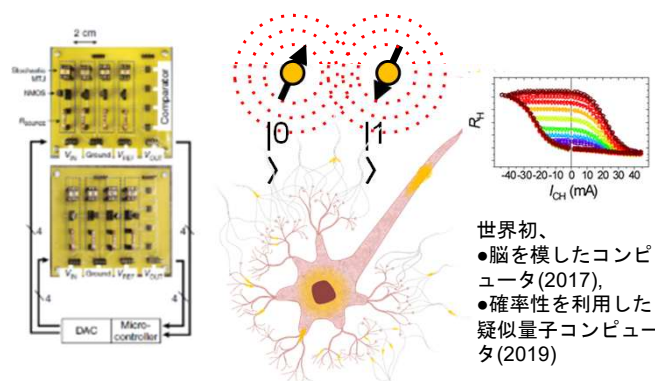
◆ 革新的な磁化の電氣的制御/検出

スピントロニクスの真骨頂は電気で磁化を観れる/操れることです。更なるスピントロニクスの発展のための革新的な磁化の電氣的制御・検出手法、及びそのための材料基盤技術にも取り組んでいます。例えば量子相対論的效果によるスピンの流れを利用した磁化制御、磁化が無いのに磁石の性質を示す新材料の機能性デバイス応用など、物性・材料の新たな地平を開く基礎研究でも世界の先頭を走っています。



◆ 新しいコンピュータ(脳/確率/量子)

脳に学んだコンピュータ、確率的振る舞いを利用したコンピュータ、量子的性質を利用したコンピュータなど、今の情報処理の枠組みを一新する技術の開発にも挑戦しています。スピントロニクスを用いた世界初の脳型コンピュータ、疑似量子コンピュータの原理実証に成功しています。これからの低炭素社会に役立てるべく、学術的理解と基盤技術の構築に取り組んでいます。



深見 俊輔 先生からのメッセージ

スピントロニクスは**理学・工学**の両面で魅力に溢れ、更なる成長の可能性を秘めた若い学術分野です。特に最近では**半導体**や**量子**などのハードウェア技術の重要性が増しており、スピントロニクスにはその主役としての活躍が期待されています。学生の皆さんには、これまで勉強してきた電磁気学や量子力学、数学を駆使して最先端の研究に取り組み、未来の情報社会を拓く学術・技術を創出しながら、未知の課題に取り組む力を身に付けてもらいたいと思っています。敷居は全く高くありません。これまでも皆さんと同じような学生さんが縁あって当研究室に配属され、大きく成長して数年後には世界を驚かせる成果を出しています。皆さんと一緒に未来の学術・情報社会を切り拓いていけることを楽しみにしています！

研究室の一年

- 1,2月：博論・修論・卒論・3年生ゼミ発表、打ち上げ、スキー旅行
- 3月：追いコン
- 4月：お花見～片平キャンパス～
B4M1ゼミ開始(固体物理)
- 5月：実験D(測定・評価の基礎)
- 6月：実験D 発表会
- 7月：4年生院試勉強開始
- 8月：院試
- 9月：ソフトボール・フットサル大会
- 10月：通研公開・芋煮会
- 11月：駅伝大会・3年生ゼミ開始
- 12月：忘年会



深見・金井研、池田研の構成

深見教授、池田教授、金井准教授、連携研究室を含む教職員(教授1名、准教授3名、助教8名)、学内の研究員5名、企業からの研究員1名、研究支援員4名、秘書3名、アドバイザー(大野先生)、学生31名(博士8名、修士19名、留学生1名、学部3名)

深見・金井研はこんなところ

- 国際的(豊富な国籍(アメリカ、チリ、スウェーデン、フィンランド、フランス、ポルトガル、イタリア、ポーランド、インド、中国、スリランカ、韓国など)のメンバーで構成され、海外機関(アメリカ、フランス、ドイツ、スウェーデン、チェコ、スイスなど)へ短期留学・就職する学生も多数)
- 卒業生の主な就職先：JAXA, SONY, トヨタ, TEL, 村田, パナソニック, 日産, 旭化成, 三菱電機, etc
- 授業ではほとんど扱わない磁性体の分野だけど、先生や先輩が1から教えてくれるから大丈夫！
- 院試休みはたっぷりあるので十分に勉強できます(過去問もあるよ！)

Åkerman 研(連携研究室)について

Johan Åkerman教授(スウェーデン)は、高周波スピントロニクス素子とその通信、脳型計算応用における世界のトップ研究者です。2023年1月に本学教授に着任し、本学初となるUniversity Research Leadの称号が授与され、電気通信研究所に研究室が設立されました。計5名の研究者で構成され、学生配属枠はありませんが、深見・金井研、池田研と一体となって活動しています。



👉 深見・金井研、池田研のことをもっと知りたい方はQRコードから研究室HPへどうぞ！

👉 研究室についてのお問い合わせについては

022-217-5555 または

karube.takuto.t8@dc.tohoku.ac.jp (軽部)まで気軽にご連絡ください！

